

平成30年度 佐久地域の「横断的な課題」に係る取組状況

資料1

●地域振興推進費 ◆部局予算

横断的な課題	施策の柱	具体的な事業の取組状況(中間報告)・事業実績	しあわせ信州創造プラン2.0 佐久地域計画における達成目標の進捗状況
健康長寿と地消地産の推進を核とした地域づくり	さくっと「ずく出す」プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関係機関、団体、企業等の連携のため、さくっと「ずく出す」ネットワーク会議を開催(5/28 20団体 26人)</li> <li>●ロコモ予防に向けた「ずく出すサポーター養成講座」の開催(4回 述べ参加者 185人 修了者43人)、「ずく出すサポーターフォローアップ講座」の開催(2回 延べ参加者116人)、ずく出すフォーラムの開催(3/13予定)</li> <li>●働き盛り世代の運動の習慣化を図るため、企業等におけるスポーツ指導者養成講座を開催(参加者延べ20団体35人)、企業等が開催するセミナーへ講師を派遣(4社、計8回、参加者延べ 248人)</li> <li>●文化財ウォーキングマップの作成</li> <li>●「健康長寿」の地域づくりを推進するため、ウォーキングコースの活用促進、情報発信に関して関係機関による検討会議を開催(1回)</li> </ul>	要介護・要支援認定率 【目標値】14.9%(2022年度) 【現状値又直近値】 14.9%(2016年度)⇒ 14.7%(2017年度) (次回更新予定 2019年7月)
	佐久「地消地産」プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地消地産を推進するためのツールとして、地域農業の姿や野菜と花き等特徴ある地元食材の生産・流通に至る過程を動画化(委託実施中)</li> <li>●上田地域振興局と連携した食糧自給圏消費実態調査を実施(委託実施中)</li> <li>●佐久産の日本酒消費拡大を図るため、銀座NAGANOでSAKU13のPRイベントを開催(参加者56人)、佐久地域日本酒PRパンフレットの翻訳及び試験配付(500部)</li> <li>●野菜摂取量の増加、減塩に向けた「さくさく野菜食べようキャンペーン」の実施。野菜チェックシートの作成(3,000部)、キャンペーンポスターの作成(500部)、のぼり旗の作成(100組)、キャンペーンチラシの作成(10,000部)。のぼり旗等を直売所、スーパー等の野菜売り場に設置(直売所10か所、スーパーに依頼中)。地元紙等でのキャンペーン広告の掲載(11月～3回 5回を予定)</li> <li>◆佐久鯉の消費拡大に向けた冷凍技術等の開発研究(佐久鯉の熟成時間に関する鮮度指標による検証と官能検査による食味評価)</li> </ul>	新たに地元食材を利用する宿泊施設数 【目標値】20施設(2022年度) 【現状値又は直近値】 0施設(2016年度)⇒ 1施設(2019年1月末) (次回更新予定 2019年4月)
	いいずら佐久カラマツ活用プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「2018環境フェアin佐久(10/6、参加者約50人)」「森林フォーラムin佐久(2/11)」における森林認証及びカラマツ製品等のPRを実施</li> <li>●市町村担当者、財産区・区の役員を対象に、カラマツ林の主伐、再造林を推進し木材を安定供給するために視察研修を実施(2回、参加者41人)</li> </ul>	民有林のカラマツ丸太の生産量 【目標値】65,000m <sup>3</sup> (2022年) 【現状値又は直近値】 53,768m <sup>3</sup> (2015年)⇒ 55,522m <sup>3</sup> (2016年) (次回更新予定 2019年4月)
美しい星空と青空をテーマとした観光地域づくり	星空・宇宙を学び、楽しむプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐久・南信州・木曾の3地域振興局が連携し、「長野県は宇宙県」スタンプラリー2018(7/21～11/4)に参加、ヘルシーテラス佐久南で星景写真パネル展(7/24～9/30)を開催</li> <li>●佐久地域の美しい星空を活かした星空観賞会を開催(3回、参加者88人)</li> <li>●観測施設等と連携し、地域の小中学生に向けた「佐久エリア星空観賞会」を開催(11/10、参加者46人)</li> </ul>	観光地延利用者数 【目標値】1,545万人(2022年) 【現状値又は直近値】 1,495万人(2016年)⇒ 1,540万人(2017年) (次回更新予定 2019年3月)
	高い晴天率を活かした青空の下で楽しむプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>●渋滞対策のため、白駒池・苔の森へのシャトルバス等の情報に関するチラシを諏訪地域振興局等と連携し、作成配付(9,000部)</li> <li>●広域観光を推進するため、市町村と連携しアフターDCに併せて軽井沢駅で地域の特産品や観光のPRを実施(7/1、9/30)</li> <li>●ポールを使ったウォーキングによる効果測定の実施(委託実施中)</li> <li>●移住者や観光客が手軽に景観を眺められる環境をつくるため、ビューポイントの活用促進、情報発信に関して関係機関による検討会議を開催(1回)</li> </ul>	移住者数 【目標値】449人(2022年度) 【現状値又は直近値】 323人(2016年度)⇒ 337人(2017年度) (次回更新予定 2019年5月)
地理的優位性を活かした移住の促進と二地域居住の探求	佐久地域の移住スタイルの探求	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市町村と連携した信州佐久地域移住体験ツアーを開催(2/9～2/10、参加者5組、計10人)</li> <li>●移住専門誌等により佐久地域のライフスタイルについて情報発信(雑誌「TURNS」及びWebへの掲載)</li> </ul>	移住者数 【目標値】449人(2022年度) 【現状値又は直近値】 323人(2016年度)⇒ 337人(2017年度) (次回更新予定 2019年5月)
	佐久地域の特色ある教育・子育て環境のPR	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市町村、教育関係者、宅建協会等と連携し、信州「佐久地域」移住・教育セミナーを銀座NAGANOで開催(1回、参加者10組、計19人)</li> <li>◆市町村(学校組合)教育委員会が実施している特色ある教育や学校の活動をとりまとめ、ホームページ等で情報発信</li> </ul>	浅間山登山客数 【目標値】5万人(2022年) 【現状値又は直近値】 3.6万人(2016年)⇒ 2.9万人(2017年) (次回更新予定 2019年3月)
浅間山の防災体制強化及び活用	防災体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ハザードマップを反映させた新しい市町村防災マップのひな型を作成(3月完成予定)</li> <li>◆ハザードマップに係る市町村住民説明会を順次開催(計3回開催。今年度あと1回開催予定)</li> <li>◆浅間山火山防災協議会において情報伝達訓練及びロールプレイング防災訓練を実施(各1回)</li> </ul>	浅間山登山客数 【目標値】5万人(2022年) 【現状値又は直近値】 3.6万人(2016年)⇒ 2.9万人(2017年) (次回更新予定 2019年3月)
	固有の資源としての活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●銀座NAGANOで浅間山周遊登山の魅力発信するPRイベントを開催(参加者23人)</li> <li>●県外在住者を対象に浅間山周遊登山モニターツアーを実施(参加者16人)</li> <li>●噴火警戒レベル引下げに伴う情報発信の強化(首都圏開催イベントでの浅間山ガイドブックの配布及び来シーズンに向けた登山情報誌記事掲載のための取材を実施)</li> </ul>	浅間山登山客数 【目標値】5万人(2022年) 【現状値又は直近値】 3.6万人(2016年)⇒ 2.9万人(2017年) (次回更新予定 2019年3月)

地域の 特長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高原野菜や畜産を中心に県内屈指の農業地帯であるとともに、県内有数の観光地(軽井沢町・立科町)を抱えているが、農畜産物や地酒の地域内の利用拡大などの取組が必要</li> <li>○ 地域保健・食育活動が活発で、保健医療体制も充実しているが、塩分摂取量が多いなどの健康上の課題も存在</li> <li>○ 伐採期を迎えた優良なカラマツが数多く存在するが、利活用は不十分</li> <li>○ 首都圏から良好なアクセス環境にあるが、地域全体として移住・二地域居住に活かしきれていない</li> <li>○ 国内有数の火山である浅間山について、火山対策の推進と浅間山の「恵み」を活用することが課題</li> </ul>
-----------	--